



投資環境

2024年7月26日

市場、調整色強める

□ 米国株は主要ハイテク株中心に調整、国内株は円高も重しに

7月24日に決算を発表したテスラとアルファベット(グーグルの親会社)の株価が、24日の米国市場でそれぞれ約12%、約5%下落しました(図表1)。テスラは利益が市場予想を下回りましたが、アルファベットは、利益が市場予想を上回ったにもかかわらず、大きく下落しました。テスラは、7月に入り20%以上上昇していたほか、アルファベットも年初から約30%程度上昇していたことで、高値警戒感が強まっており、決算発表をきっかけに利益確定売りが強まったとみられます。

上記の2社に加えて、主要ハイテク企業の株価は今週に入り軒並み下落しており、ハイテク企業を中心に構成されるナスダック総合指数は22日から25日にかけて、約5%下落しました(図表2)。来週は、米主要ハイテク企業の4-6月期決算発表が相次ぐほか、米連邦公開市場委員会(FOMC)も控えています。また、21日にバイデン氏が大統領選挙から撤退表明をしたことで、米大統領選挙をめぐる不透明感が増したことも投資家の慎重姿勢を強めたとみられます。実際に、投資家が市場の先行きに対して抱いている不安の大きさを示すVIX指数(S&P500指数をもとに算出)は、今週に入り上昇しています(図表3)。

国内市場では、米国株下落に加えて、円高も重しとなり株価が大きく下落しています。7月30、31日の日銀の金融政策決定会合で国債購入の減額の具体的な方針が決まる見通しとなっているほか、利上げの可能性も取り沙汰されていることを受けて、日経平均版のVIX指数が上昇するなど、投資家の先行き不安が高まっています(図表4)。

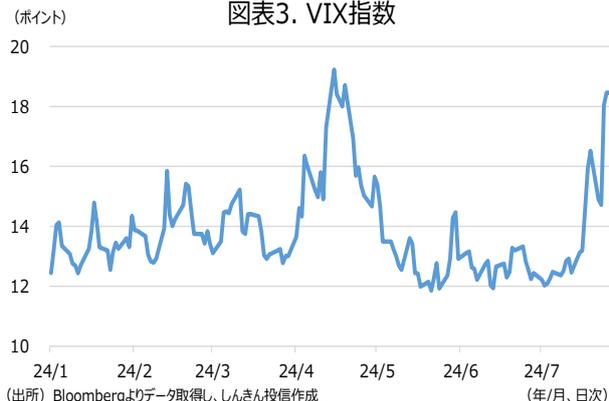
図表1. テスラとアルファベットの株価



図表2. ナスダック総合指数



図表3. VIX指数



図表4. 日経平均版VIX指数
(日経ボラティリティインデックス)





□ 今後の動きは

主な株価の変動要因である、企業業績や経済動向は日米ともに堅調です。また、米国については、米連邦準備理事会（FRB）が9月にも利下げを開始することが見込まれ、金利低下も株価の押し上げ材料として期待されます（図表5）。今週の日米の株価下落は、主要決算や金融政策に関する会合、米雇用統計の発表を控えて、過度に投資家の先行き不安が強まっていることが要因の可能性があり、来週のイベントを通過すれば、少なくとも株価は下げ止まることが期待できます（図表6）。

日本株については、日銀の金融政策正常化に伴う国内金利上昇は上値を抑えることになりそうです。ただ、日経平均株価は3か月ぶりに調整局面を迎えており、個人投資家の新しい少額投資非課税制度（NISA）を活用した押し目を拾う動きが強まることが期待できます。加えて、自社株買いによるものとみられる事業法人による資金流入が、毎週約1,000億円以上という高水準で継続していることも好材料です（図表7）。そのため、市場の先行き不安が払拭されれば、株価は徐々に持ち直すことが期待できそうです。

図表5. 株価への影響

業績拡大	上昇
金利低下	上昇
先行き不安高まる (VIX上昇)	下落

図表6. 来週の主なイベント

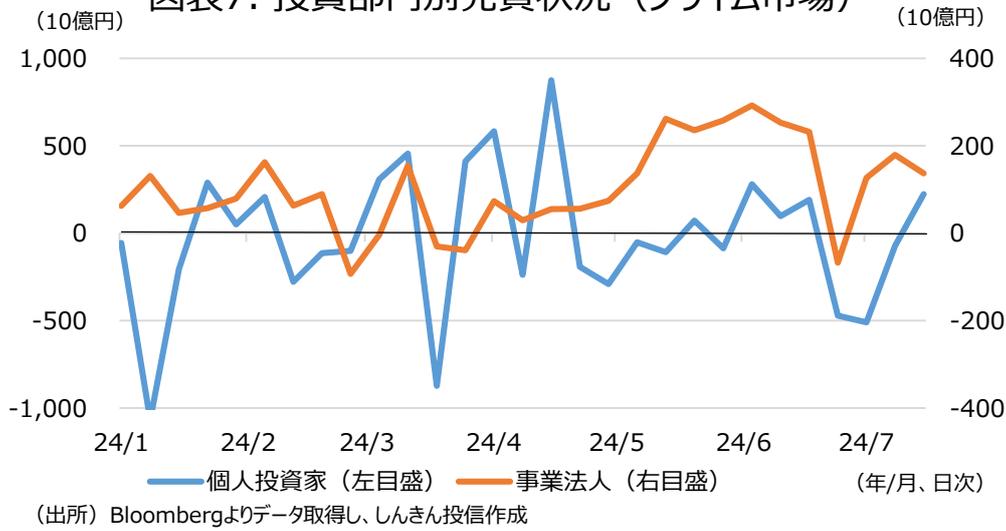
日付	国内	米国
7月30日	日銀金融政策決定会合（31日まで）	米連邦公開市場委員会（31日まで）
7月31日	植田日銀総裁会見	マイクロソフト決算
8月1日	トヨタ自動車決算	パウエルFRB議長会見 メタ決算
8月2日		アップル決算 アマゾン決算 7月雇用統計

（出所）各種報道を基に、しんきん投信作成



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
 Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

図表7. 投資部門別売買状況 (プライム市場)



(ストラテジスト 澤村一樹)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。